

豊かな住生活の実現を

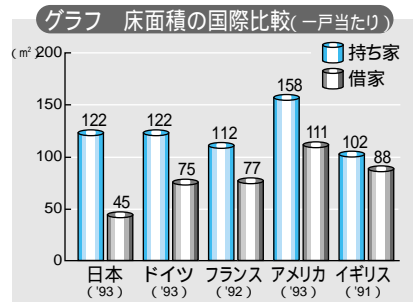
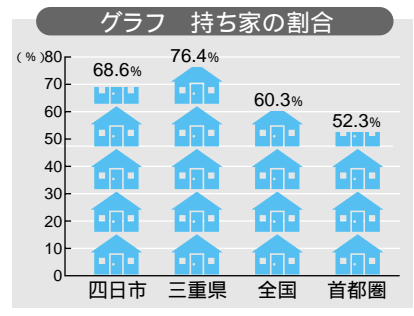
特集 新・住宅マスタープランができました

住まいは毎日の暮らしの拠点です。安心して快適に暮らすことができる住まいから、幸せの実現が図れます。市では、市民一人ひとりが豊かな住生活を送れるよう、居住水準の向上や質の高い魅力的な住環境の整備を目指し、「新・住宅マスタープラン」を策定しました。このプランは本市の実情に適した住宅施策を進めていくための基本的な方針を示したものです。この特集では、プランのあらましをご紹介します。

住まいの現状と課題

広さにゆとりある賃貸住宅や 丈夫で長持ちする家を

市内の住まいの現状
市内の住宅のうち、持ち家の割合は六八・六％で、全国平均を八％ほど上回っています(グラフ)。
一戸当たりの平均延べ床面積は、持ち家で二二・七・七四平方メートル、借家では五〇・九二平方メートルで、どちらも全国平均をやや上回っています。



日本の住環境の課題
持ち家の割合は高いものの、「借家では狭すぎるため、やむを得ず持ち家に」という事例もあり、時代や要望に応じ、賃貸などの良質な住宅「づくりが必要」と思われます。

日本の住宅水準を国際比較すると、賃貸住宅の床面積の狭さが際立っており(グラフ)、「ゆとりを持って子育てができる広さの賃貸住宅が求められています。また、建て替えるの周期が三十年と非常に短く、これは建て替え費用の面でも資源の有効利用や環境保護の面でも問題で、丈夫で長持ちする住宅の建設が必要です。」

住宅政策の方向

「住まいを『供給すること』から『質の重視』へ」

住宅に対する要望が一人ひとり異なり、また、多様化する中、これまでの供給中心から居住の自身の重視へと住宅政策の転換を図ります。また、市民のみなさんが地域のまちづくりのなかで住宅

の在り方や住生活について見直し、住宅がまちの財産であるという意識を高めていくことも大切です。「新・住宅マスタープラン」では、このような認識の上で、次のように「基本理念」、「基本目標」を示しています。

基本理念
『住んでみたい、住み続けたい、魅力あるまち』
——四日市の実現

基本目標
安心して住み続けられるゆとりある住生活の実現
だれもが住みたくなくなるような魅力ある住生活の実現



重点実行施策

緊急性などから五つの施策を優先的に進めます

1

必要な時に十分な情報を 住まい情報の整理と発信

住まいに関する専門的な情報を収集・整理し、「広報よっかいち」や市民向けパンフレット、インターネットなどを通じて分かりやすく提供します。

住まいに関する施策の周知
知って得する住まいの豆知識の提供
住まいに関する専門家の協力による情報提供



4

広い賃貸住宅でゆとりある生活を とくゆうちゃん(特定優良賃貸住宅)の供給

子育て世帯の住み替え、家族構成の変化、転勤などに対応できる良質な民間賃貸住宅の供給を進めます。狭い民間賃貸住宅の水準を改善し、所有する住宅から利用する住宅への転換を図ります。



子育て世帯の住み替え、家族構成の変化、転勤などに対応できる良質な民間賃貸住宅の供給を進めます。狭い民間賃貸住宅の水準を改善し、所有する住宅から利用する住宅への転換を図ります。

入居者の収入に応じた家賃補助
住宅建設費の補助と
利子補給

2

高齢者が安心できる住まいを バリアフリー化など高齢者の住まいづくり支援

高齢者が安心して自立した生活を送れるよう、住宅のバリアフリーの普及や啓発、改善を進めます。

シルバーハウジングの供給
高齢者向け優良賃貸住宅の供給
高齢者が敬遠されない民間借家市場の整備

3

住宅に困っている人に安い家賃で 適切な市営住宅の供給

市営住宅の的確な改善、更新により、真に住宅に困っている高齢者、障害者、子育て世代などに安い家賃の住宅を供給します。

入居希望者への適切な情報提供
老朽化した市営住宅の早期建て替え

5

家族の希望に沿った家を 持ち家支援のための宅地・建物融資

親の家や会社の近くに家を建て、ゆとりを持って育児や家事をできるような住生活を支援します。市内に住宅や宅地を取得しようとする勤労者を対象に融資をしています。宅地だけの取得を対象とした融資も可能です。

勤労者住宅取得支援
融資制度の利用を促進



特定優良賃貸住宅に入居して

希望通りの環境と広い間取り

井田恵児郎さん(三八)・美穂さん(三七)ノ垂坂町



四日市に転勤することになり、インターネットで住宅情報を調べていて、市のホームページで「とくゆうちゃん」とこのマンションのことを知りました。実際に来て見てみると、希望どおり緑いっぱい、環境に満足。広さも七十三平方メートルとたっぷり、ゆとりのある間取りも気に入りました。市の家賃補助があるのもいいですね。

勤労者住宅取得支援融資制度を利用して

好きな地域に二世帯住宅を

江崎直樹さん(三八)・典子さん(三六)ノ桜花台一丁目



以前の家がすぐ近くで、この地域には子どもの友達も多く、また、長女の小学校も変えたくありませんでした。夫の母も近くに住んでいましたから、ぜひ、この地域に母との二世帯住宅をと思っていました。宅地だけでも融資が受けられるこの制度を利用できたからこそ、この土地を見つけた時にすぐに手に入れることができました。おかげでじっくりと建築計画が立てられました。